

学友会 (関西)



1995

Dedicated To International Peace and
International Understanding



YO NE YA MA 11



1986年5月11日に学友会（関西）が発足し、11月にダイハツディーゼル（株）の食堂で第1回の懇親会が開かれた。YO NE YA MAが創刊されたのがその翌年である。

YO NE YA MA [I] を見たら、副理事長 原田秀雄先生（1993年8月16日逝去）が『発刊を祝して』の中で、……友のために簡単な記録を残すことも大切で、会報の使命は重大である。何事でも歴史



世界のロータリアンが一堂に会する年に一度の国際大会が、台北で開催されるのを機会に、台湾に帰っておられる米山奨学生OBの同窓会『扶輪米山会』の総会と懇親会が台北のリージェントホテルで盛大に開催され、私たちの地区からは東條仁進理事・釜下保男地区米山委員長と共に出席させて頂きました。

先ず立派な会場にびっくり、ご準備に大変な気配りと各々時間と労力とお金をかけての総会で、総勢325名。招かれた我々日本のロータリアンとその家族合わせて106名を熱烈大歓迎でした。

次のびっくりは、来賓の方々に中国国民党中央党部許水徳秘書長（日本で言えば自民党の森幹事長）を始め政府の高官関係者・台北市議員らがずらり、扶輪米山会会員は今では政財界学会の第一線で活躍しておられる方々ばかりだなあとの思いを持ちました。

黄仁安会長の心のこもった歓迎の言葉に、末永直行理事長が感謝の思いを込めてご挨拶をされ『21世紀はアジアの時代、私どもは手を携えて新しいアジアの時代を切り開いて行くパイオニアであり続けたい。皆様の一層の御活躍を…』と、次に日本の文部大臣に当た

会報第11号の発行に当たって

（財）ロータリー米山記念奨学会

常務理事 ^{おい た} 種 田 憲 次

が重んじられるが会報の類がなければ歴史は作られない。十年、二十年と重ねてこそ意味が重大になる。この仕事の後継者にその人を得ることは極めて大切に思われる。……と書いておられる。的を得たことではなからうか？

第11号の発行にあたり、会長・幹事の方々の努力は大変だと推察するが、この様な気持ちで次の十年も続けて頂きたいと願っている。

『扶輪米山会』出席報告

R.I.第2640地区 バストガバナー

大 澤 徳 平

る方から感謝の額『嘉恵学士』が贈られ、扶輪米山会からは新竹師範学院蔡友専任助教授力作の『大草原之秋』が記念品として贈呈されました。

懇親会に入り同じテーブルの方々と挨拶を交わしながら日本におられた時代をいろいろ思い出しながらの楽しい会話が続きました。それは次のようなものです。

『一番困っているときの米山奨学金は本当にありがたかった。それと忘れられないことはロータリアンのカウンセラーの先生方の思いやりで、ずいぶん心の支えになりました。』『悩みを打ち明け相談できるカウンセラーが良かった。』

『ロータリーの例会に出席して数多くの素晴らしいロータリアンに巡り会えた喜びは忘れられない。帰ってきてからは奉仕に心がけている。』

『例会に出席して皆さんと家族的な付き合いをしていただいた。』

『人と人とのふれあい。家族的な信頼感。』

『留学時代の経験を生徒に話しています。口では言えないほどの恵みが私の心の底にいつまでも残っているからです。そして私も皆さ

んも力があつたら絶対に人に援助してあげようと教え子に勧めています。』
『私が日本に留学して最も勉強になったのは人に奉仕することです。』
『日本の家庭が見られ大いに勉強になった。』
『言葉の問題でひっかかる。日本語はむづかしい。』
『日本では学位を取るのは難しい。特に文科系で…アメリカは取りやすい。』
『卒業間際の追い込みのときは例会出席がきつかった。』等々
日本のロータリアンが自慢の出来るこの米



米山奨学事業のお手伝いをさせて頂いてから早や7年もの間が過ぎました。その間、米山奨学生学友会（関西）が発足、又出身国へ帰られた奨学生OB諸君がお国での学友会を作られたりして、米山記念奨学会の理想とする国際理解と親善に一步ずつ前進が見られ結果として表われて来た事に大いに喜びを感じます。

日本独特のこの米山奨学事業には、日本全国の12万6000人余の物質的見返りを求めぬ善意の御奉仕、唯々、各々のお国での市民リーダーとなって立派な人間として人種、民族、政治、宗教を超え、国際理解と国際親善に尽くして頂ける事を願っての日本のロータリアンの皆様を忘れる事は出来ない。

今年も奨学生の期間終了の歓送会を終え送り出した時、何時も感じる事は自分の子供を社会に送り出す時の様な、又娘が結婚する時の様な気分になるのは不思議なものである。

奨学生と出会いの御縁を天から頂いたものだろうし、将来本人自身の為は勿論、世の為、人の為になって下さいと祈る気持が溢れて来る。

私の所属するクラブでお世話した奨学生がお国に帰って事業を起し、日本円にして20数億円の現在資本金になって株式上場しようかと云う奨学生OBがいる。勿論現地のロータリアンになり、お国の人々の為に御奉仕している。

山奨学事業の為にも、色々な打ち明け話まで聞いたことは大変参考になりました。

宴もたけなわに盛り上がり、末永理事長夫人のピアノ演奏で会場は感動に包まれ、扶輪米山OBからは熊本で習ったという日本舞踊『火の国旅情』の優雅な舞姿でこれまた会場を魅了し大拍手が送られ、時間を忘れ心暖まる会がお開きとなりました。

以上プログラムの隅々まで大変なお心配りと真心のこもったおもてなしに心から御礼を申し上げ出席報告と致します。

学友会（関西）に寄せ～

R.I.第2660地区 米山奨学委員長

渡 辺 斌

又その時お世話なされた私のクラブのカウンセラー（元会長）の胸像がその本社に飾ってあるのを見たのには驚いたが、この事自体は別として気持の通じ合った国を超えての国際理解と親善の表われではなかろうか。本当に嬉しい事である。

又米山奨学生OBとなってからの学友同志も、もっともっと交流の機会を持って欲しいもの。国を超えての交流こそが私共ロータリアンの願いであり理想と合致するのである。



米山奨学生一泊研修旅行報告

開催日 1994年10月10日～11日
場所 静岡県米山梅吉記念館

R.I.第2640地区 米山奨学委員長

釜下保男

才門ガバナーをはじめ、17名のロータリアン20名の奨学生、総勢37名による研修旅行は、台風接近の曇り空の元、新大阪駅をスタートしました。

車窓よりの山なみは、輪郭のみの墨絵の世界、茶畑と製紙工場の街新富士駅付近からは、薄く富士山の姿が望め、車中からの歓声に責任者として、まずはホッと胸をなでおろす。

新幹線を三島駅で降り、早速米山記念館へ、六角形二階建ての小さな記念館の前庭には、句碑が新たに建立され、御殿場RC幾田裕男記念館常務理事より、解説がありました。

『いさかきも なき漫々の 青田かな』

米山 梅吉

稲のよく生育したことも、さることながら、水争いのなかったことは、何よりも嬉しいと感じた。

『青雲のひとみを富士に 黄瀬若葉』

360地区ガバナー 内藤 卯三郎

青雲の志（若き日の夢と決意）をもった若者が、いつも富士山をみつめている。そのうしろには、黄瀬川の若葉が萌えている。館内に於ても、句を通じて米山梅吉翁のひととなりを紹介されました。

『起きつ伏しつ まろびつ 岩根掴みつつ』

競える山は まなかいの外に』

米山 梅吉

子供を次々亡くし心を痛め、寝ても起きて夢の中に、幻のように出てくる子供の姿に、近づいて行こうとする。ころげつつ岩を掴みつつ、山へ登っていくが、二つの山（二人の子供）は、自分の目の外に去って行く。

続いて、元長泉小学校校長葛城先生よりの、展示品を通じて米山梅吉翁の説明にも、写真や書簡より何かを学び取ろうと、じっと見入っている奨学生の、真剣な姿が印象的でした。

2620地区米山奨学委員長土屋忠男氏より、どうして皆さんが奨学金をいただけるのか、よく考えて欲しいと、投げかけがあり、奨学生は、ロータリアン一人一人を通じて米山先

生の心と接しているのだと励まされました。

その後才門ガバナーより、寄付金の贈呈があり、近くにある米山梅吉翁墓所にて、楠公延ガバナーノミニー読経の中、線香を手向け遺徳を忍びました。さらに一行は、長泉小学校前の翁銅像をバックに記念撮影の後、東名高速を経て今宵の宿泊地、河口湖畔富士レイクホテルに到着、ただちにビデオテープによる米山翁の生涯について研修、一息入れたところで楽しい宴会となりました。

才門ガバナーより、自分の名も出さず苦学生に学資を出し、奉仕に徹しられた、米山翁の心をよく理解し奨学生の皆さんは、勉学の後母国へ帰り、国際親善に励み又、この精神の普及に努めて下さい。大澤バスターガバナーより奨学生に対し、皆さんの母国語で話しかけてくれるロータリアンがいたり、いろいろ心を砕いてくれる人がいる。この思いやりの心を感じ取り、このご縁を大切にしたい。などの話がありました。

宴会の後半には奨学生一人一人が、感想をのべました。いくつかご紹介しますと、（大澤バスターガバナーの話を受けて）ご縁（5円）より10円が良い。日本へ来た5円（ご縁）と、あと5円（ご縁）で中国へ来て下さい。し、ウィットに富んだスピーチ。ご縁を大切に、国際親善に励みたい。自分の専攻の工業関係ばかり考えていたが、米山先生の偉大さ、社会奉仕に感激し、社会福祉にも関心を持った。ロータリーのお陰で、良い生活が出来うれしい、経済面の心配がなく勉学にはげめる。など米山奨学会への感謝と、国際理解や社会奉仕の尊さを、身をもって体験され、熱く語ってくれました。後は有志によるカラオケバー、日本人よりうまい奨学生、インドネシアやタイの踊りを、披露するロータリアン、なかなか中に富士の夜はふけていきました。

小雨に煙る2日目は、親睦のプログラムでまずは、富士吉田よりスバルラインを経て、ガスの中に雄大な富士の姿を想像しながら、富士山五合目へドライブ、土産物を見て回り

、五合目2305mの標識と共に、スナップ写真におさまる。白樺の黄、ナナカマドの赤、シラビソの緑と、織りなす秋の気配を心に残し、車中は終始打ちとけた雰囲気で、時々奨学生の母国語が飛び交い、ロータリアンのユーモアたっぷりの、外国語講座が笑いを巻き起こす。

水晶工場の見学、青木ヶ原樹海の一部を通り、富岳風穴では冷気に身を縮め、めずらしい溶岩洞穴を体験、のんびり草を食む牛の群れる朝霧高原を横手に見て、昼食は巻狩本陣でのバーベキュ、この頃には雨上がりの雲の

切れ目より富士の山頂も時々頭を覗かせ、一行は最後の見学地白糸の滝へ、なごりを惜しむかのように、滝をバックに写真を撮り合う。最後に奨学生に米山記念館研修以外で、この旅行の印象を聞いてみました。ホテルの食事がおいしかった、各国の留学生と話し合えて良かった、ロータリアンのユーモアに打ちとけられ楽しい旅だった等、満点の答えであり、主催者として充実した成果の2日間を、関係各位に感謝しつつ、新富士駅より帰阪の途につきました。



感謝と恩返し

台湾扶輪米山会

(台北東海ロータリークラブ)

中華民国扶輪米山会(ロータリー米山記念奨学会台湾学友会)の先輩たちは政治状況がまだ開放されなくて非常に難しいところに、当会を創立しました。20年に近い歴史をわたって、やっと運営が順調になりました。93年10月12日に台湾にいる米山奨学生OBを中心とする会員大会が開催されました。その時、同時に第3期、つまり今期の理事会も激しい投票選挙で誕生しました。(註：1)今期の理事会の役員たちは指名されて役員になったのではなく、自主的に役員選挙に参加したのです。この特徴は、'94年6月13日の米山総会の懇親会を主催する時に役員たちは責任を負って、一所懸命仕事に従事した姿から

分かります。

インターナショナル・ロータリークラブの94年世界年会は6月11日から14日まで台北で開催しました。世界年会のために、日本のロータリアンや米山奨学生のカウンセラー方々もきっと台湾にいらっしゃるだろうと考えて、謝恩会の形で米山総会の懇親パーティーを開くことと決定しました。

懇親パーティーに参加した人はその日の状況はまだ覚えているでしょう。盛大で誠意と熱意の溢れたパーティーでした。参加した米山学友の内心は一同に謝恩の気持ちばかりで日本からのご来賓に捧げました。その日の貴賓は元亜東関係協会台北駐日経済文化代表処

代表 許水徳様、日本ロータリー米山記念奨学会理事長ご夫妻、交流協会台北事務所所長梁井新一様、インターナショナル・ロータリー総会理事松本卓臣様、米山奨学会理事湯原竹之助ご夫妻、主事南郷様などでした。このほかに、中華民国教育部国際文教処処長の余玉照様は政府の代表として、長年わが国の留学生のお世話をなさいましたため、銀のプレート（上の文字は「嘉恵學子」）を贈呈致しました。

また、忘れられないのは学友の蔡友様がご自分の描いた「大草原」と言った水彩画を奨学会に差し上げたことと鐘有輝学友が一ヶ月近く寝不足の状態ですら4種類で合わせて400枚の版画を375人の出席者に差し上げたことです。どちらからとって、学友たちは言いたいこと、やりたいことは実は出来るだけ恩返しをしたいのです。

ところで、米山総会が終わってから、台湾3450地区の元地区ガバナー黄其光様からの連絡がありました。出来れば、米山学友が中心になる日本語で話すロータリークラブを作ろうという要件でした。一カ月の連絡で、創立説明会、準備会を通して、現在、15名くらいの米山学友が正式に入会しました。会名は

「台北東海ロータリークラブ」（註：2）です。このクラブを通してすべての学友は昔日本の方からお世話になった故に、代わりにいまロータリアンになって、わが身は社会奉仕、国際奉仕、国際交流、国際親善を実際に参与したいのです。

最後ですが、わが奨学生はこれから更に職業、居る国を問わず、人間の幸せ、世界の平和が促進出来れば、幸いだと存じます。

註1：今期の理事会役員：名誉会長廖高義、顧問-黄深勳、黄国雄、阮允恭、曾国雄、会長-黄仁安、副会長-趙恩惠、幹事-劉振源、理事-謝牧謙、蕭興仁、鐘有輝、黄瑞耀、楊碧雲、陳皆榮、王三郎、監事-黄文桜、柯貴城

註2：台北東海ロータリークラブの事務所は台北市中山北路1段53巷20号910室

TEL:521-7759 FAX: 521-2450

例会の時間：毎週金曜日、お昼12時から2時まで。

例会の場所：台北世界貿易センタークラブ（台北市基隆路1段333号33F）

TEL: 723-2939



右から四人目：末永直行理事長
左から二人目：台湾扶輪米山会 黄仁安会長
右から三人目： “ ” 趙恩惠副会長



米山学友会の紹介

(ロータリークラブでの卓話)

甲子園大学経営情報学部助教授

大塚 賢 龍

私は台湾台北出身で元米山奨学生大塚賢龍(本名:呉賢龍)でございます。台北の国立中興大学商学部を卒業した後、名城大学、愛知学院大学修士課程を経て、1980年大阪府立大学商学研究科博士課程マーケティング専攻に入学しました。1981年—82年計2年間、米山記念奨学金を頂きました。当時、月額8万円でしたが、これは大卒の初任給に相当する金額でございます。お陰さまで大阪府大在学中、国からの仕送りがなくても、またアルバイトをしなくても、勉学することができました。そして、専攻していたマーケティング論に関する参考書を沢山買うことができ、お陰で多くの論文を書くことができました。これは、そのあとの甲子園大学への就職と、大学の教師になった後に非常に役に立ちました。

一方、奨学生時代に大変お世話になったカウンセラー堺東ロータリークラブの小林康人様に御礼を申し上げたいと思います。今でも時々会いに行くなど、家族付き合いを行い、引き続きお世話になって交流をさせて頂いております。

次に、私が副会長として務めている関西米山学友会を紹介させて頂きます。関西米山学友会は1986年5月に元会長重光世洋教授が創設したもので、今年で9年目になります。

設立の目的として、本会は元および現米山

記念奨学生間の交流を通じて親睦と互助を促進すると共に、国際親善および世界の平和に寄与することを目的としています。関西米山学友会は2650、2640、2660と2680計4地区の元米山奨学生を正会員とし、現在、合計257名がいます。準会員は現奨学生ですが、奨学期間が修了した後、自動的に無条件に正会員になります。なお名誉会員は米山ロータリークラブのロータリアンや各奨学生の指導教授でございます。

関西学友会の活動としては、毎年6月に総会を行うと同時に年1回学友会の会報を発行致します。この会報は私が総編集者として2年連続務めさせて頂いております。今年も、ロータリアンの皆様のご投稿をお待ちしております。締切は12月末でございます。今日は20部程持って来ていますので、ご覧になって頂ければ幸いです。

そのほか、毎年11月に日帰り旅行の懇親会も行い、ロータリアンのご参加も大歓迎しております。本学友会はロータリークラブの会員との交流を通じてロータリー米山記念奨学会の事業のご発展に寄与することが最大の目的でございます。

以上、米山学友会の紹介をさせて頂きました。ありがとうございました。



ロータリーの精神から学ぶもの

米山奨学生学友会(関西)第2660地区副会長

梁 官 洙

大阪経済法科大学講師・研究員

季節はもう春である。ところが、爽やかな春が間違いなくやってきている中で春らしい季節感も楽しめない人々がすぐ隣に大勢いる。阪神大震災によって掛け替えのない命が5,500人(1995年4月2日)も亡くなった。幸い助かった人々でも30万人もの被災民らが災

害から立ち直るために必死になって頑張っている。私の知人や友人達の中でも被災者が多かった。地震直後、ライフラインが壊滅的に破壊されてしまった状況で一滴の水を求めて長い列を成し、何時間も辛抱強く待っている場面をテレビで見て、あの寒い中で列を組ん

でいるはずの友人の顔が浮かんできた。あの時、絶望の底に落とされて苦しんでいる友人らや大勢の被災民のために「今、私にできることは何だろうか」と考えた。日本滞在12年すぎたが、まだ外国人の身分である私にせいぜいできることは水とポリカン（水汲む時の必需品）を友人らに持っていくこと程度ではないかと思っ、地震発生から三日目の日、行動に移った。阪急線の西宮北口駅から歩いて、芦屋に住んでいる三人の友人のところを訪ねた。大阪で12年間暮らしたとしても神戸方面の道には慣れてない私があつた混雑極まる状況で救援物資を背負って現れるとは、友人達には予想もしなかつたらしくて、喜びながらもびっくりする表情であつた。私が行つたささやかなことを自慢するためにこんなことを言つてつもりではないことをまず断つておきたい。奉仕とも言えないほど本当に小さな私の行いをここで述べるのはロータリーの〈奉仕と友愛〉の精神から学んだものだと思うためである。血縁的つながりなどまったくなく、世界各国から来ている留学生達に奨学金を与えるだけでなく、いろいろと世話してやるロータリアンの優しい心に打たれたことが多かつた。実は米山奨学生として住之江ロータリークラブの方々に接してから友愛精神とは何かということについて学んだことが多い。

私がロータリー米山奨学生に選ばれて住之江ロータリークラブのお世話になつてもらったのは、大阪市立大学の経済学博士課程に入った1986年4月から1989年3月までである。私の留学期間中もっとも重要で苦しい時期に米山奨学金のおかげで博士課程を無事に済ますことができた。その間、井川重次先生と福井幸男先生にお世話になつて頂いた。福井先生が経営している高級レストランに私の家族みな招待されて、福井さんの長男と長女の夫婦とともにご馳走してもらつたこともある。福井さんは自分の息子たちとも長く友情を深めていってほしいとおっしゃつた。あの時、感じた優しい心は一生忘れられないと思う。久保忠義先生は私を米山奨学生に推薦して頂いた方である。その以来、毎年賀状は交換してきたが、これといえるほどの恩返しはできないまま歳月が流れた。昨年10月、私の拙著『韓国民族民主運動の軌跡』の出版記念会を大

阪にて開かれることになつて、久保先生にも案内状を送つた。いつも忙しい方だから、必ず参席されると期待して案内状を送つたのではなかつた。しかし、久保先生は「すでに先約があつて参席できないのがとっても残念ですが、お祝い金を送ります」という返事とともにお金を送つて頂いた。この方々以外にも私の心に香りの滲む思い出を残してくれたロータリアンは数多い。昨年10月、関西学友会の会長の許さんから副会長を担つてくれるよう頼まれたとき、気楽に受け入れたのはこういう奉仕活動を通じて少しでも米山奨学会に恩返しができるのではないかと思つたからである。しかし、いままで別に大事な役割をしていなかつたために自分について恥づかしく思う。

学友会の活動についても私の断想を述べてみたい。学友会員の多くは帰国して自分の国のいろんな分野で活躍しているが、最近日本に残つて活動する会員も増える傾向にあると思われる。留学生は日本の文化、歴史、社会、政治、経済など各分野について深い理解を持っているため、日本と各国の間に親善と友好を深めるのにもっとも適切な大使の資格を持っている。言つてみれば、留学生らは〈友好大使〉の豊富な予備軍に違いない。この役目を今後発揮していけるよう学友会の活動をより多様に企画して実行すれば素晴らしいものになるであろう。今年学友会十周年記念行事が予定されているが、帰国した会員への連絡を緊密に取つて、もっと多様で忠実な交流の場を創り出してほしいと期待している。ロータリーソングの〈手に手を握つて〉をともに歌いながら、先輩後輩みながあつた留学生時代の春に戻り、語り合う時を作ればどれだけ楽しいだろうか。そして、ロータリアンの精神を世界の隅々まで広げていける夢を語り合つてみたい。



関西大震災の雑感

黄(横江)文雄

1月17日午前5時46分阪神地方で震度七の激震してから40日以上も経った。余震千回以上の怖ろしさと震後に起きた火災の悲惨でした。死者はすでに、警察庁のまとめによれば5400人を上回った。崩壊高速道路、建物、水道、電気、ガスいろいろな面での崩壊は戦後もっともひどく、一生忘れることはないだろう。16日の夜に、伊丹駅の近くにあるホテルで会合があり帰りが遅くなった。地震の三日前には神戸で夕食会があった。そこでは神戸では地震などなく住みやすくまた人情味あふれる所なのだと自慢話が続いた。それが一瞬のうちに前日の自慢話をしていた人の家は崩壊し、私の友人もなくなった。地震が起きた直後、私達一家は一階に逃げ下りた。古い木造は一階の方が危険なのに、何も知らずに半日以上一階にいた。毛布にくるまり、ラジオに耳を傾けているうちに一階は危険と知り、二階に戻った。



建設省の道路調査団などの調査結果で、今回の阪神大震災で、被災地の地盤は関東大震災の2倍の揺れだったようです。冒頭に強調しておきたいのは、今回の大地震は、関西では本当に稀だということです。時間を遡りますと、約2か月ちょっと前のことでした。

時刻は、1995年の1月17日午前5時46分。

皆はまだ熟睡中でした。突然、背中を何かに突上げられ、起き上がろうとした途端、天井がベシャンと崩れ落ち、家が一瞬にして解体されたように全壊しました。下敷になった家族の安否を確認し合って、目もだんだん醒めていきました。助けを求め、最初に出た言葉は何と中国語の「救命阿ー チョーミンアー」でした。その声に自分でも滑稽に思いました。

18日には友人を尋ねるため、往返12時間以上かけて神戸へ向かった。途中、危険建物が多くあり、余震が多発し非常に恐ろしかった。

いままで神戸市内と阪神間の大学や短大40校以上で犠牲となった学生は留学生を含み約百人にもものぼる。希望にあふれ大きな可能性を秘めた中国人留学生も既に二十一名も亡くなった。

19日の大阪民間団体が義援活動と避難学生のうけいれ対策など行なわれた。ある知人は本人が被害者であるにもかかわらず避難中の台湾、中国、香港などからの留学生六十名以上を受け入れていた。なんとも素晴らしい心を持った方なのかと深く感銘を受けた。

ロータリー米山学友会のある会員の家は全壊し、本人は重傷を負った。米山奨学生のOBとして、奉仕の精神を大切に自分にできる限りのことをしたい。

バック・トゥ・ザ・フューチャー
阪神大震災 —あの日に戻れたら…

蔡秀娟

たぶんアメリカ人の場合は「HELP! ヘルプー」となるでしょう。改めて「助けて ヲスケター」と言い直しましたが、しかし、周りは静かなままで、返事などは有りませんでした。

ちょうどその時、子供が「痛いヨ〜!」と泣き出しました。若しかしたら、怪我してるかもしれません。不安に包まれながら、自ら脱出に動き出しました。やっと、開けた天井の穴から、皆で順番に、抜け出しました。周囲を見渡しますと、近所の家は八割近く崩壊していました。自分の家は北側にはみだされた状態でした。皆で裸足で公園まで避難しました。主人が下着姿で、子供が半袖のTシャツにパンツ1枚でした。寒さと空腹感に耐えながら、夜が明けるのを待ち続けました。近

所の坂本さんがそれを見て、衣物と二杯の熱い紅茶を持って来た後、家の中に入れてくれました。しかし、主人は上半身の痺れがひどくなったため、避難所になっている精道小学校の救護室に入れてもらいました。

やがて、夜が更けていきました。その晩、余震が数十回にも及び、まるで悪夢の連続でした。一晩中寝られませんでしたので、朝になって、やっと寝つきました。十八日の夜十一時頃、友人が来て、皆で大阪に出ました。翌日の夕方、病院へ行こうとした時、主人の会社の櫓次長様がお見えになりました。次長様と一緒に主人を病院に送りました。検査の結果、首の第四、第五頸骨間の関節が折れまして、緊急入院となりました。数日後、手術を受け、今毎日リハビリの入院生活を送っています。

地震以来、主人の会社の田嶋正量常務様を



「ドン」、これは何の音ですか？「ギタ、ギタ…」、本棚が左右に動いている。まさか、地震ですか？これは1月17日の阪神大地震で目覚めた時の状況です。すごい揺れだったので恐かったが、おちてきたものは少なかったし、通常の地震よりちょっと大きいぐらいと思ったのに、まさか、こんな大震災になるなんて想像もできなかった。

18日、神戸市中央区の家に戻りました。その途中に目に入った光景はテレビに放送された映像よりもっと自分を驚かせた。まるで戦争による廃墟のようで見ると忍びない光景で、言葉も出なかった。

2月23日、水とガスの無い生活にピリオドを打った。その間、不自由な生活が続いた、また恐怖の余震に襲われた毎日に、人達の助け合いと人からの励ましの言葉に支えられてきた。そのときつくづく思ったことは、5469人の死者を出し、人の命の脆さを感じる一方、どんな逆境でも生き残るのは人間である。なぜならば、活発なボランティアや震災復旧救援活動のお陰で、日本全国の国民は一つの輪

初め、鈴木良治部長様、櫓勝次長様、そして会社の皆様に物的にも精神的にも支えられ、暖かい気持の中で見守られています。学友会は勿論のこと、許紫芬会長を初め、種田憲次先生、重光世洋先生、林錫璋先生、大塚賢龍先生、黄文雄先生、…、メンバーの方々に、この一角を借りて、感謝の意を述べさせていただきます。これからは次の言葉を心の奥に刻んで、皆様と一緒に頑張っていきたいと思えます。「家が倒れても、人間が倒れない天の試練。」(確かに、人間は果てしない広大な宇宙の中の僅かな存在ですが、しかし、希望を失うことなしで、人間がここまで生き続けて来ました。これからも生き続けていくと確信したいです。)

一九九五年四月・芦屋から避難して
二ヶ月大阪にて

頑張ろう、神戸

米山奨学生学友会(関西)第2680地区副会長

呉 淑 芬

になったため、避難所で生活している人達の生活は少しずつ改善されたので、新しい希望を生み出し、惨めな現状を乗り越えようとしているのではないですか？

地震以来1ヶ月以上経った。倒壊のビルを見ると、ただ驚きの気持から一日も早くそのビルを解体して新しいビルに建直して欲しいという気持ちになった。ネオンが町に満ち溢れている神戸が恋しい。新しい神戸を早く見せて欲しい。

前向きに明るく頑張ろう、神戸。





日本に来て感じたこと (ロータリークラブでの卓話)

米山奨学生 世話クラブ—大阪北R.C.

禹 永秀

皆さんこんにちは。いつもお世話になっております。私は現在、大阪大学工学部環境工学科M1の禹 永秀ともうします。私は韓国の釜山で生まれました。家族は両親と兄、姉、私の5人家族です。

日本には1990年10月に来ました。私は日本に来るとき船で来ました。船は午後6時に釜山を出発して夜の12時頃下関を通過しました。そのとき日本のカタカナと漢字で書いてある看板が目にはいって、“あー、ついに日本に来たな”と感じて胸がいっぱいでした。

韓国での日本の印象は過去30年間韓国を治めた国、現在は経済大国であり、国民は礼儀正しくて親切な民族でした。日本に行けば文化も違うし食べ物も違うと思いましたが、日本の食べ物は思っていたより私の口に合いました。とくにラーメンはうまかったです。日本の生活にもそれほど抵抗感がなく無難な生活ができました。この無難な生活の中でびっくりしたことは、親の前で20才前後の息子がタバコを吸っているのをみたときです。韓国では考えられない光景です。日本は礼儀正しい国だと思っていたのにこれは何のことだろうと思いました。しかしこれも考えれば親子の関係がそれほど親しいと受け取ってもよいのであろうと考えるようになりました。韓国での身内の関係はたいへん厳しく、特に親戚、先後輩、家族の

関係は厳しいです。知らない人の前ではみんな平気でタバコを吸いますけど。

それに一番感心したのは日本のテレビ番組です。表現の自由といいますか、時々ひどいことを言っているなど思う時もありますけれど、とりあえず自由に自分が思っていることを表現できるということは素晴らしいことだと思います。韓国ではテレビ放送中言葉の使い方に非常に気を使っているんです。日本では“バカ、おまえ”などを普通に我々が日常で使う言葉を自然に使う、テレビを見ている人々も自然に見る。これは素晴らしいと思いました。そしてもう一つは日本の道路です。市内中心はいつも混んでいますが、どこの田舎町に行ってもちゃんと道がアスファルトで舗装されているのを、それもほとんどが20年前にできてあると言うことに感心しました。やっぱり日本は経済力があって人々の心も豊かで、余裕があって、親切です。私も日本に来て最初は苦労しましたが、今は米山記念奨学会の奨学金をもらって皆様にたいへんお世話になっており、良い生活ができて勉学に専念できるようになりました。父がいつも僕ら兄弟に言うことを思い出します。“愛をもらったらず愛で返せ”と言いました。私も日本と韓国が近くて遠い国と言う観念を両国の国民がなくすように頑張ります。有り難うございました。



感謝

米山奨学生 世話クラブ—長浜R.C.

黄 敏利

時が経つのは早いものです。あっという間に、二年間の奨学生生活も終わりを迎えています。この二年間、幸いにもこの奨学金をいただき、私は経済的な面で非常に楽になり、順調に学業を終えることができました。ここ

で、ロータリアンの皆さんとカウンセラーをなさっていただいた吉田さんに感謝の気持ちを申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

ところで、来日前に私が抱いていた夢は

“大富豪”になることでした。例えば、どこかに別荘をもったり、車はベンツに乗って、衣食住で豊かな生活をし、レジャーは常に海外旅行といった具合です。とにかく、自分のことしか考えていませんでした。しかし、米山奨学金をいただき、ロータリーとの接触を重ねるうちに、考え方が変わりました。皆さんもご存じのように、ロータリーのメンバーは各業界の偉い人ばかりが集まっています。例会に参加することによって、私はロータリアンの方々の金銭への執着は一般の人々と違うということに気がきました。一般の人々は私の夢と同じように、自分のことしか考えていません。しかし、ロータリアンの方々は、自分のためだけではなく、社会のために尽くそうと考え、社会奉仕を行い、また、多額の寄付もされています。例を挙げると、環境保護の活動を行い、交通安全を呼び掛け、青少年育成のために指導などの公益活動を行います。これらの社会奉仕活動を通して、ロータリアンの方々は社会に多大な貢献をしてきました。しかし、これらの活動は寄付だけでできることではなく、ロータリアンの方々の貴重な時間を費やさなければ、完全な活動を行うことはできません。例えば、2/26長浜ロータリークラブ主催の福祉講演が開かれます。この講演に必要な費用はロータリーの方々の負担になり、まだ、ポスターを貼るなどの大変な労力を要します。にもかかわらず、皆さんはこの活動を熱心に支持してきました。それを見て、私は非常に感動しました。私が思っていたお金持ちの方に対する印象はテレビでみたように、贅沢であり、偉そうな態度で、苦勞せずにお金を手に入れていると思っていました。しかし、ロータリアンの方々は違いました。ロータリアンの方々の振る舞いはごく普通の人間であり、人より倍ぐらい苦勞をかけて、頑張っていたのです。このように、この二年間ロータリーの方々の様々な活動を振り返ってみると、ロータリアンは“他人を助けることを楽しみにしている”という考え方をもっているんだと感じました。ロータリアンは“経済面”の大富豪でありながら、“精神面”の大富豪でもあるのではないのでしょうか。両方のゆとりをもっているからこそ、このような立派な事業を行う事ができたのでしょうか。ロータリーの活動

をみて、自分の考えていた豊かさは、物ばかりで成り立った、つまらないものであったと気が付きました。私は精神面の惨めな大富豪になってしまふところでした。私は私以外の人に私が持っている物、獲得したものを差し出し人々の幸福を願い、それを喜びとする、このような大富豪になりたいと思います。

私は毎月二週目に例会に参加しています。ここで歌われるロータリーソングは四つのテストつまり真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうかです。実は、私はこの歌を何も考えずに歌っていました。しかし、この間、迷い事があって困っていた時、突然四つのテストの歌が頭に浮かんできました。そして、歌詞の内容に照らし合わせて、考えることによって悩み事を解決することができたのです。この歌詞にこんな有意義なことが書かれていたのに、初めて気が付きました。これからも、この歌を私の座右の銘として歌い続けたいです。

この二年間、様々な事がありました。例えば、米山月間では奨学生の皆さんには、二つのクラブでスピーチをする機会が与えられます。私はこれまでに大勢の人々の前でスピーチをするという経験は全くなく、このようなことは、初めてでした。こんな貴重な経験はなかなかできるものではありません。なぜかという、自分は政治家でもなく、社長でもなく、ただ日本に勉強をしにきた留学生の一人なので。しかし、幸運にも私は大勢の人の前で話をするという機会を与えられました。このようにたくさんの方に話を聞いてもらえるということは一生のうちにそうはないでしょう。この経験を通して私は、スピーチの難しさについて考えさせられました。スピーチには、多くの知識や、豊富な経験が必要だと思います。自分はまだまだスピーチが下手で、スピーチを上手にできる人を尊敬します。彼らはきっとたくさん本を読み、知識をたくわえ、様々な経験を通してスピーチが上達していたのでしょう。スピーチという機会を与えられて、私は様々なことを考えました。本来人前でスピーチをする立場ではなかったはずの私に、このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。よい経験になりました。

私は来月の下旬に台湾に帰国する予定で

す。仕事はまだ決まっていますが、帰ってからも今以上に頑張るつもりです。将来皆さんと同じように経済面と精神面のゆとりができるかどうかはわかりません。でも、私はロータリアンになることを目標として頑張っていきたいと思います。また、長浜クラブの方々にお世話になったことも一生忘れません。

長浜と台北東門は来月友好クラブとして引



私は1989年4月に中国杭州市から来日して以来、大阪工業大学で留学しており、ほぼ6年が過ぎました。学生生活が終わろうとしている中、この6年間の日々を振り返ってみました。

私は保証人（吉岡建設（株）の会長 吉岡寛様）との付き合いで日本人との交際が始まりました。7年前おじに紹介されて吉岡様と手紙のやり取りで知り合いになりました。最初は日本語も分かりませんでした。吉岡様に激励されて日本語を習い始めました。そして来日の手続きをして頂くことによって、留学の夢が実現するに至りました。その後、吉岡様御夫妻はより行き届いた御配慮を下さっています。日本に到着した日に、吉岡様は自ら大阪南港まで迎えに来て下さいました。そして、しばらくの間、暖かい御自宅（高槻市）に家族の一員のように同居させて下さいました。学費や生活費など経済的な御援助だけでなく、今でも懐かしい奥様手作りのおいしい御馳走も頂きました。またその間、私のために日本語の先生（森せつ様）も呼んで下さり、森先生にも丁寧に教えて頂きました。大学の外国人宿舎への入居許可を得た後、そこに転居致しましたが、その際にもご心配下さり冷蔵庫からつまようじまでいろいろな生活用品をトラックにたくさん積んで宿舎まで送って下さいました。それ以後も、長い間常に御親切にして頂き、簡単に言葉では表せませんが、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私の専攻は経営工学で、宇井徹雄教授の御指導の下で多目標計画支援システムの開発に

引き続き調印するそうです。これからの友好活動や交流などに、私が力になれることがあれば、ご遠慮なく申し上げて下さい。私は必ず全力を尽くします。日台友好のため両クラブが長く続くことを心から祈っています。この二年間本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。

幸福を下さった皆様ありがとう

米山奨学生 世話クラブ—高槻東R.C.

孫 國 強

関する研究を行いました。今までの日本の学会で3回、国際会議で2回の研究発表、そして日本経営工学会誌に掲載された論文が1つ、載録決定になった論文が1つ、International Journal of Production Economicsに載録決定になった論文が1つとなりました。最近博士学位論文も完成し、良い勉強になったと思っておりますが、最初は日本語さえしゃべれなかったもので、指導教授に学会への研究発表を勧められ、その準備に取り組んでいる間はつらいものでした。けれども今、振り返ってみると、先生からの御勧めがなければ上述の研究成果はきっと得られなかったと思います。

1993年4月～95年3月、私はロータリー米山奨学生に採用され、高槻東ロータリークラブにお世話になりました。経済的な御援助だけでなく、クラブの例会や家族会、忘年会などのロータリー活動にも参加させて頂きました。また、カウンセラーの先生方（長谷川暉郎先生、中小路浩先生、岸本忠男先生、平賀正先生）を始め多くのロータリアンの方々に招待されたり、色々なプレゼントを頂いたこともあり、個人的な交際も楽しくさせて頂きました。そのおかげで研究に専念させて頂いたと共に、素晴らしいロータリアンの理想や日本社会の深層も見聞させて頂き、充実した留学生活を送ることができました。

その他にも、ここでは書き切れないほど、たくさんの方々のお世話になりました。この長かったようで短かった6年間、皆様のおかげで、私の留学には専門知識だけでなく、良い思い出や友人もたくさんできました。良い

思い出は人生の調味料で、知識や友人は幸福の元だと思います。これを下さった皆様に、この場を借りて、心から感謝の意を表させて



日本に来たのは19歳になったばかりでした。何も恐がらず、ただ好奇心と夢でいっぱいでした。それまで親元を離れたことのない私にとっては一つのチャレンジでもありました。初めて一人暮らしを始めました。六畳のワンルーム部屋で台所とトイレとバスルームがついた部屋で、とても便利でしたが、少し狭いのではないかと思いました。もっと驚いたのは、日本の独身者は、ほとんどこんなところに住むということでした。町を歩けばいろいろな自動販売機があります。たとえばお酒、たばこ、お菓子、アイスクリーム、新聞、雑誌、ビデオなどは台湾の自動販売機では売っていないものばかりでした。駅の近くにいけば、よく立ち食いの光景を見かけ、通勤時間にはみんな走りながら歩いている姿を今でも覚えています。そんな時ゆっくり歩いている私は、まるで仲間はずれのようなようでした。

日本人の勤勉さは駅前の立ち食いや地下街を走るように歩いて行く人の群れからもよくわかります。というのは、日本人は非常に時間を大事にしています。約束の時間をちゃんとまもっています。時間に対する態度は台湾と全然違います。例えば、よくある例が、台湾で結婚披露宴を開かれる時、招待状に六時半に入場、七時に披露宴を開始すると書けば、七時にぞろぞろはいつてくるお客様が普通です。披露宴の時間を七時半にのぼしてしまうこともよくあります。最もびっくりするのは、台湾人にとってはそれはめずらしくないことです。日本人の勤勉さはもう一つの例からもわかります。それは「残業」。日本人の残業はひとつのシンボルです。それは「がんばっている」ということです。日本人の忠実さもここから見られます。日本の経済の中心となって支えているのは、いくつかの大企業です。多くの大学生卒業後の第一希望は、有名な大

頂きます。これからも、引き続き御交際させて頂きたいと願っております。

私が日本に来て感じたこと そして日本と台湾の違い

米山奨学生 世話クラブ—平城R.C.

謝 意 如

企業に入社することです。そして、一旦、入社すると、定年まで勤めることは常識だと思われています。一緒懸命会社のために働き、命をかけてもかまわないような態度で仕事をしている人が多いのです。それこそ、日本人の帰属意識をよく現していることだと思います。一方、台湾には大企業の代わりに中小企業が多くて、みんな社長になりたがっています。日本人のような帰属意識をもっていないのではないかと私は思います。それも自分の個性を強調しすぎるせいではないかと思われ

ます。日本は先進国でありながらもいろいろな伝統的な文化を今までも大事にしています。例えば、着物、和紙、生け花、茶道、すもう、日本舞踊、礼儀作法、陶器、お祭りなど。現代的で開放的なイメージがある一方、古典的で保守的な面もあります。そして、両親にとっては、私の留学先が日本を選んで安心できると思います。しかも、日本の治安が世界一安全な国でありますから。伝統的な衣装といえば、着物です。初めて日本にきた時、電車やお寺でよく女性の着物姿を見かけます。その時、すごくめずらしくて相手をじっと見つめました。というのは着物姿はテレビの中にしか見られないと思っていましたから。つい最近日本人の友達に着物を着せてもらいました。最初は好奇心いっぱいであれしくて着ていましたが、時間がたつとだんだん楽しくなってきました。その時和服を着る女性に感心しました。

大学一年生のとき先輩の紹介で茶道をやりはじめた。今まで二年間を経て、少し茶道で身につけたものについて述べさせていただきます。はじめに、おじぎをして部屋にはいり、みんなにあいさつの言葉をのべて、床の間にかざってある生け花や掛け軸を観賞します。

そのいくつかの礼儀作法からお茶のたて方に進んでいきます。はじめた時、落ち着かない私でありました。先生の指導を半分しかきかないで次のところへ行ってしまいました。結局失敗ばかりしました。でも、二年間を経て落ち着くようになり、少し礼儀も身につくことが出来ました。茶道というのは、作法の外的な形だけではなくむしろ内的なものが大事であると思います。茶道からいろんなことを学びました。何をやるにも、心を沈めてよく考えてからやります。落ち着いて焦らないで、出来事を解決していきます。それは、私が茶道から学んだことです。

日本へ留学に来たお陰で、いろいろな人と



1994年11月20日（日）米山奨学生学友会（関西）の主催で、恒例の秋の懇親旅行が営まれた。来賓の中に2660地区バスターガバナーの武尾敬之助ご夫妻をはじめ、2660地区米山奨学委員長の増本猛先生、2640地区米山奨学委員長の釜下保男先生、永井孝弘先生など、学友会の名誉会員たちがお見えになった。学友会の相談役重光先生、顧問の林先生も参加された。また、第一期米山奨学生、元ベトナム留学生の今井新太郎ご夫妻も初めてお出でになった。一行五十人は朝10時JR京都駅に集合し、京阪旅行社の大型観光バスに乗って出発した。

まず私たちが訪れたのは今回観光のメインである比叡山延暦寺である。比叡山延暦寺は日本仏教の地で、日本の多くの名僧はここから出たものである。比叡山は東塔、西塔と横川の三つの部分からなっていて、この三つの地域に数多い堂（寺院）が点々と分布されている。これらの諸堂を総称して延暦寺という。私たち一行は延暦寺で自由行動を取り、各自で諸堂を見学した。比叡山延暦寺が広いうえに見学時間は1時間と定めていたため、私は延暦寺巡拝の強行軍を始めた。まずは集合場所近くの各堂から見学を始め、時間を見ながらやや離れた寺院にも足を伸ばした。当然すべての寺院を巡り切れなかった。1時間の強

出来事に出会って、さまざまなことを学びました。そのうち、自分の国のことに関心をもつようになりました。というのは、自分の国にいるとき、なんでもあたりまえとってしまうからです。また、外国に対する偏見がなくなり、もっと客観的に世界の国々のことを見ることができるようになりました。

夏休みや春休みの時、よく台湾と日本の間を行ったり来たりしてきました。そして、よく台湾と日本を比較しました。また、台湾のいいところを日本人に紹介し、日本のいいところを台湾人に話し、お互いに理解しあうことが私にとっては一番望みたいことです。

秋の懇親旅行に参加して

米山奨学生学友会（関西）幹事

桂 小 蘭

行軍見学が終わって、満腹のおなかもすっかり空かした。

見学の後は昼食の時間である。昼食は、比叡山ホテルのレストランでバーベキューをした。レストランのバーベキューなので、普通の室外式ではなく、室内でテーブルを囲んでするのである。会員たちは歓談しながら、おいしい料理に舌鼓を打った。第一期奨学生の今井新太郎ご夫妻は私と同じテーブルで、いろいろなお話を聞かせてくれた。最も印象に残ったのは、当時の米山奨学生奨学金金額は月2万円だ、ということである。

昼食の後、私たちは次の観光地-石山寺へ向かった。石山寺は千二百余年の昔開基され、奈良時代からの最も古い歴史と伝統を持つ靈山だそうだ。国宝の本堂には『源氏の間』があり、紫式部がここでかの有名な「源氏物語」を執筆したと伝える。石山寺を一時間ほど見学した後、私たちは最後の観光地-平等院へ向かった。平等院は平安時代別荘を改めて建立された寺院で、当時は鳳凰堂をはじめ、金堂、法華堂および経蔵など堂塔が立ち並んでいたが、楠・足立の戦いに建物の大半が焼かれ、現在残っているのは主に鳳凰堂である。鳳凰堂とその前の阿宇池を中心とする庭園景色は実に見事なもので、私を魅了させた。おまけ

に、鳳凰堂の外観が十円玉の図案にもなっていると、重光先生は教えてくれた。私は驚いた。私の目の前に現れているこの美しい鳳凰堂と、まったく人目を引かない十円玉に出ている鳳凰堂とは、差がありすぎて結びつけられなかったからである。

平等院を出た後、帰途についた。車の渋滞もなく、時間通りJR京都駅に戻った。そこで私たちは解散した。

今回の旅行は観光だけではなく、新旧会員

同士、又会員たちとロータリアンたちとの暖かい交流の場でもあったと思う。

最後に、ここで、お忙しい中をご参加いただいたロータリアンの皆さんに感謝の意を表したい。特に、バスターガバナーの武尾先生が83才の高齢にもかかわらず、誰にも負けないで元気よく私たちと共に行動し、最後までお頑張りになったことに対して、参加者たちは皆感服した。



1994年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

1995年3月14日現在

会 長	許 紫芬 (山岡 由佳) 甲子園大学 経営情報学部 講師 〒550 大阪市西区江之子島1-8-21-411	[大阪東R.C.] ☎ : 06-445-1090(H) 0797-87-5111(O) FAX : 06-445-1090(H)
幹事長	王 充志 明光証券 〒659 芦屋市公光町2-7	[西宮甲子園R.C.] ☎ : 06-261-6481(O)
副会長		
D-2640		
D-2650	清河 雅孝 京都産業大学 法学部教授 〒607 京都市山科区御陵牛尾町72-7	[山科R.C.] ☎ : 075-594-2029(H) 075-701-2151(O) FAX : 075-594-5249(H)
D-2660	梁 官洙 Yang Kwan soo 大阪経済法科大学アジア研究所 研究員 〒544 大阪市生野区中川西1-19-1	[住之江R.C.] ☎ : 06-741-5065 FAX : 06-741-5065
D-2680	呉 淑芬 (株) コベルコ 科研 〒654-01 神戸市須磨区南落合1丁目12番17号40棟405室	[神戸須磨R.C.] ☎ : 078-795-5967(H) 会社宿舎 078-992-5750(O)
会報編集代表	呉 賢龍 (大塚 賢龍) 甲子園大学 経営情報学部 助教授 〒532 大阪市淀川区三津屋北1-6-20	[堺東R.C.] ☎ : 06-301-3358(H) FAX : 06-300-5271
幹事		
学術	陳 麗華 〒555 大阪市西淀川区佃5-12-5-905	[奈良R.C.] ☎ : 06-477-2832(H) FAX : 06-477-2832
庶務	林 文彬 〒606 京都市左京区吉田中阿達町15-5	[京都東R.C.] ☎ : 075-751-2602(H)
会計	王 昭文 大阪市立大学 人間福祉学 〒556 大阪市浪速区敷津西2-9-2 八坂ハイツ807	[大阪船場R.C.] ☎ : 06-636-1070 FAX : 06-636-1070
書記	顧 海松 大阪大学電子制御機械工学研究室 助手 〒565 大阪府吹田市山田東4-37-29 千代の荘2-8	[大阪東R.C.] ☎ : 06-878-6061 FAX : 06-878-6061
親睦	文 楚雄 立命館大学 経済学部 講師 〒616 京都市右京区梅ヶ畑簗町28福井アパート1-2	[京都西北R.C.] ☎ : 075-864-0923
国際交流	桂 小蘭 大阪大学言語文化研究科博士課程 〒560 豊中市千里園3-1-44-2	[大阪西北R.C.] ☎ : 06-857-7215(H) FAX : 06-857-7215
顧問	林 錫璋 桃山学院大学 経済学部 教授 〒593 堺市鳳中町8-284-7	[名古屋西R.C.] ☎ : 0722-62-4633(H) FAX : 0722-62-4633(H)
会計監査	莊園 福松 税理士 〒530 大阪市北区鶴野町4 コーポ野村梅田A-216	[神戸R.C.] ☎ : 06-375-1070(H)
相談役	重光 世洋 大阪産業大学工学部 教授 〒630 奈良市七条西1-11-19	[大阪R.C.] ☎ : 0742-44-5004(H) 0720-75-3001 (内線3711) (O)

米山奨学生学友会（関西）
1993年度会計収支決算報告書

自 1993年 4月 1日
至 1994年 3月 31日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度の繰越金	947,426	
総会の参加費	343,000	
通常会費	148,000	69名×2,000 1名×10,000
特別会費	104,000	
寄付金	105,000	
米山奨学会補助金	455,000	
援助交付金	550,000	D-2640 100,000 D-2650 100,000 D-2660 250,000 D-2680 100,000
利息	1,518	
合計	2,653,944	

支出の部

科 目	金 額	備 考
総会費用	647,869	
役員会議費用	68,956	
交流会費	392,957	
通信費	184,749	
交通費	12,710	
事務用品費	124,569	ワープロを含む
広報及び印刷費	400,071	会報9、10号
雑費	23,946	
次年度への繰越金	798,117	
合計	2,653,944	

現金 ￥158,365
住友／梅田北口普通預金 ￥449,352
NO.1378636
郵便局 ￥190,400
NO.00990-9-43449

私は、1993年度（1993年4月1日から1994年3月31日まで）における会計の監査を行い、次の通り報告します。

収支計算書、財産目録は会計帳簿及び関係証憑書類の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認めます。

会計監査 荘園 福松 捺印

米山奨学生学友会 (関西) 1994年度活動報告

米山奨学生学友会 (関西) 会長 許 紫芬

1. 主な行事

主催行事 米山奨学生学友会 (関西)
1994年度総会及び新入生歓迎会
ホスト 米山奨学生学友会 (関西)
日時 1994年6月5日 (日)
場所 大阪国際交流センター
参加人員 127名
ロータリアン 50名
OB会員 33名
新規・継続奨学生 44名
内容: 会長許紫芬連任、幹事長王充志選出、
各報告、懇親会・新入生歓迎会、
米山記念奨学会に関するクイズ

主催行事 米山奨学生学友会 (関西)
1994年秋の懇親会
ホスト 米山奨学生学友会 (関西)
日時 1994年11月20日 (日)
場所: 紅葉の比叡山・延暦寺と石山寺・
平等院の参拝
参加人員 51名
ロータリアン 5名
OB会員 20名
OB会員家族 26名
内容: 武尾敬之助、増本猛委員長
釜下保男・永井孝弘委員長の挨拶
比叡山ドライブウェイ、バーベキュー昼
食、延暦寺・石山寺・平等院諸堂拝
観、記念撮影・車内親睦会

2. 参加行事

米山奨学生レクリエーション
ホスト R.I.第2660地区
日時 1994年10月2日 (日)
場所 宝塚大劇場
参加人員 学友会から代表として12名
内容紹介 観劇、挨拶、懇親パーティー、カ
ラオケ大会

参加行事 米山奨学生懇親会
ホスト R.I.第2680地区
日時 1994年11月10日 (木)
場所 神戸第一楼
参加者 学友会から代表として2名
内容紹介 挨拶、懇親パーティー、会食、学
友会の紹介、カラオケ大会

参加行事 米山奨学生歓送会
ホスト R.I.第2640地区
日時 1995年2月23日 (水)
場所 リーガロヤルホテル堺
参加者 学友会会長
内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想
発表、修了証書・記念品贈呈、
会食、記念撮影



参加行事 国際ロータリー第2650地区米山学
友交流会並びに米山奨学生修了式
ホスト R.I.第2650地区
日時 1995年 2月25日(土)
場所 京都ロイヤルホテル
参加人員 2650地区内在住OB会員10名
元カウンセラー10名
内容紹介 挨拶、米山学友交流会、終了奨学
生の紹介、修了証書・記念品贈呈、
会食

4. 1995年2月12日第2回役員会議
- ①1995年度総会を6月4日に大東洋で開催することを決定
 - ②1995年度活動方針及び予算案を検討
 - ③1月17日阪神大震災地区学友36名へ被害調査を行う
 - ④その他
5. 1995年3月19日会報第11号の編集会議を行い、今後の方針を検討

～・～・～・～・～・～・～・～・～

参加行事 米山奨学生歓送会
ホスト R.I.第2660地区
日時 1994年 3月5日(日)
場所 阪急ターミナルビル17F ル シェル
参加人員 学友会から代表として5名
内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想
発表、修了証書・記念品授与・
会食



3. 1994年10月1日第1回役員会議
- ①秋の懇親会の方針を決定
 - ②総会未参加者へ会報第10号、年度会計報告と会費納入振込用紙の送付
 - ③その他

米山奨学生（関西地区）の人数について

地区	範囲	95年度新規者	現在継続の者	CY	地区合計
2640地区	大和川より南の大阪府と和歌山県	15名	17名	1名	33名
2650地区	福井県、滋賀県 京都府、奈良県	32名	24名	3名	59名
2660地区	大和川より北の大阪府と大阪市	30名	16名	6名	52名
2680地区	兵庫県	16名	12名	0	28名
合計	関西地区	93名	69名	10名	172名

★ちなみに、日本全国米山奨学生は950名（'95年4月現在）

会員の消息

●博士学位の取得、おめでとうございます。

黄 海鎮：工学博士学位（大阪大学）	李 相基：応用化学博士学位（大阪府立大学）
李 承妍：文学博士学位（大阪市立大学）	文 相喆：応用化学博士学位（大阪府立大学）
林 聖一：理学博士学位（大阪大学）	胡 新成：環境科学博士学位（大阪府立大学）
魯 永培：工学博士学位（大阪大学）	金 東夏：工学博士学位（京都大学）
禹 雲澤：工学博士学位（大阪大学）	金 正權：工学博士学位（京都大学）
馬 坤：工学博士学位（大阪大学）	金 英淑：薬学博士（京都大学）
王 道洪：工学博士学位（大阪大学）	伊力亜司比拉勒：理学博士学位（京都産業大学）
安 成模：工学博士学位（大阪大学）	王 暁光：医学博士学位（京都府立医科大学）
李 振宝：工学博士学位（大阪大学）	

●著書の出版、おめでとうございます。

許 紫芬（山岡由佳）：95年3月20日『長崎華商経営の史的研究』、
—近代中国商人の経営と帳簿— ミネルヴァ書房出版
梁 官洙：94年11月『韓国民族民主運動の軌跡』 柘植書房出版

●赤ちゃんの誕生、おめでとうございます。

朴 孝卿：94年5月28日、男の子 陳 麗華：95年4月9日、女の子
文 燕友：94年12月26日、女の子

●阪神、淡路島大震災で被害を受けた会員について

王 充志：家屋全壊の上、ご本人と奥さんともけがされました。
劉 嘉雄（福山嘉一）：家屋は半壊で住めない状態になってしまいました。

○奨学生の被害状況について

2640地区：家屋半壊1名（けがナシ）
2660地区：家屋全壊1名（けがナシ）
2680地区：家屋全壊2名（けがナシ）

●その他の消息

李 寧發（LY-PHAT）：94年5月6日帰化されました。
日本名は藤岡寧發（ふじおかねいはつ）です。
呉 敏如：結婚により、田中敏如さんになりました。
張 瓊文：95年5月6日～11日、大津市のギャラリー“今人”にて、“蛙の生態記録by張東君”
のテーマで展覧会を開く。

1994年度米山奨学生学友会関西地区会員名簿

奨学生の番号順で次の通り

1994年9月30日現在

今井新太郎	00006	山岡	由佳	01880	焦	然	03143	李	炳男	04066
重光 世洋	00066	松井	仁淑	01884	余	松姫	03261	吳	賜金	04070
中山 勝富	00168	鄧	尚昇	01893	王	桂香	03365	白	丙基	04071
上條 勝常	00170	鍾	晶心	02068	柳	政和	03367	王	旭志	04074
林 錫璋	00204	李	鴻儒	02069	齊	慧藝	03373	安	敬温	04076
香島 明雄	00235	廬	本文	02070	張	韓模	03376	杭	海莉	04078
沈沢 政男	00262	早川	由美	02077	鄭	錫賛	03377	許	文九	04079
黄 振祥	00368	張	謙益	02089	蕭	春蓮	03382	劉	文君	04083
郭 顯榮	00372	福山	嘉一	02236	紀	惠珍	03386	文	錫中	04084
郭許 瑤琴	00465	河	允姬	02253	鄭	家漢	03389	吳	敏如	04085
徳山 卓也	00497	辛	嘉靖	02260	莫	素微	03397	王	惠津	04089
清河 雅孝	00577	田	星姬	02351	王	石明	03399	黄	鎮杰	04095
林 茂宏	00584	高樹	亮一	02467	全	玟樂	03401	金	憲泰	04097
豊田 秋雄	00590	權	貴玉	02475	洪	徳俊	03403	金	高男	04098
林 宏作	00596	李	靜淑	02476	黄	承國	03463	金	容珣	04100
黄 文雄	00647	唐沢	宗良	02498	李	暎一	03468	王	昭文	04103
東 正伯	00651	朴	政九	02500	肖	敏悟	03503	尹	淑鉉	04105
李 展龍	00713	張	哲珉	02550	劉	景東	03506	徐	貴淑	04186
西原 正雄	00721	陳	麗華	02739	王	冬兰	03507	馬	燕	04214
藤岡 寧堯	00729	何	玉翠	02741	李	東	03510	文	楚雄	04215
舘 ちな(幸珍)	00734	林	琇春	02747	黄	蘭翔	03722	顧	澤蒼	04216
高本 智正	00967	朴	美子	02750	宰	秀秀	03724	王	淑怡	04272
魏 栢良	00972	朴	誠國	02751	林	妙音	03727	張	瓊文	04487
莊園 福松	00975	千	文奉	02757	林	云鉉	03728	陳	愛莉	04491
小林 裕生	00984	金	東周	02777	蘇	琿媛	03731	黄	英哲	04493
鄧 蒼葦	01068	李	東翊	02783	鄭	寅謨	03735	金	明珠	04494
黄 光前	01109	梁	官洙	02788	崔	慶昊	03736	林	明志	04497
大田 一博	01122	周	良宜	02790	李	起子	03738	林	獻山	04498
南 俊彦	01135	姜	兌欣	02791	王	幸珍	03742	劉	慧夏	04500
武田 維明	01140	朴	鐘祐	02793	黄	元燮	03744	朴	勝子	04502
張 壁東	01266	王	充志	02796	金	孝仙	03748	朴	信貞	04503
鍾 雲海	01279	吳	淑芬	02798	朴	三用	03750	葉	淑節	04508
吳 賢龍	01409	陳	士昌	02808	譚	珊瑚	03751	陳	喜英	04509
廖 登稔	01440	藤森	信一	02987	金	寶英	03752	黄	筱雅	04513
蘇 顯揚	01456	金	秀芝	02992	金	東洛	03810	金	活蘭	04514
羅 成純	01467	蕭	麗幸	03022	黄	曉芬	03840	金	政和	04515
文 燕友	01549	梁	貞模	03029	楊	克儉	03841	金	瓏教	04516
石田 光雄	01588	劉	美京	03032	金	力	03843	李	惠敬	04518
車 季南	01700	劉	泰均	03041	莫	明春	03844	劉	伯亮	04520
黄 晨昌	01704	文	兌景	03051	劉	雨珍	03847	陳	昌淑	04526
劉 明治	01709	蔡	錦玲	03054	林	源輝	03981	謝	文豪	04530
林 小微	01718	李	炳魯	03057	陳	怡卿	04054	徐	漢兢	04531
丁 玉麟	01735	蔡	秀娟	03059	江	國平	04055	金	芝均	04532
吳 俊雄	01739	侯	小南	03131	崔	冷	04056	林	日東	04535
竹田 淑惠	01852	包	承柯	03137	任	喜敬	04062	朴	紀衍	04537

辛 美善 04538	柳 美成 04550	王 華 04663	王 毅 04702
楊 建興 04540	徐 珏洙 04627	羊 垂平 04685	顧 海松 04706
龔 千芳 04543	梁 善雅 04628	徐 慈懷 04689	桂 小蘭 04707
黃 愛玲 04544	林 文彬 04629	張 敏 04697	高 躍華 04709
李 香叔 04546	金 玉善 04634	鄭 麗藝 04698	李 嘉林 04710
李 楚倫 04547	劉 真 04636	廖 朝暉 04699	于 水 04712
吳 賢淑 04548	朴 美連 04637	邵 永裕 04700	劉 莉 04713
朴 考卿 04549	姜 明求 04640	孫 誠 04701	劉 紹明 04714

ファン・ドック・ロイ	00985	ブラダン, スティール・ラマン・ラル	03753
トラン・コン・ティエン	01139	シュレスト, ディネス・ブラサド	03754
バハードル・サルダール・カーン	01258	ビエンチャムロエン, ソンサック	04032
フィーノ・ジュゼッペ	01274	チョン・クン・ティ	04093
ペリーニ・リノ	01308	三浦ニュートン清隆	04109
アシュリー・ファラマルツ	01850	タバオ, ヘンリー・アグレス	04110
藤原エミリオ	01891	モハマッド, モキルル・イスラム	04197
モータメド・エクテサビ, ミトラ	01906	ハーナフ, アーンド・ヘルムト	04492
アディカリ, バドリ・ナート	02065	サコ, ウスビ	04504
ウダガマ・スマンガラ	02083	テオ・チュウ・シアン	04506
チャンドララール, ディリーブ	02483	ウォーターズ, カレン・ジュリア	04507
リー・ケン・チョアン	03170	バナウンウェラー, ニャーナーランカーラ	04523
ロレンゾ, エスペランザ・セシリア S.	03362	ウバダヤ, シャンティ・プリヤ	04524
ウェルク, テコラ	03383	フー・シャン・ルイ	04529
ザヤニ・モハマッド・ヘディ	03400	ウ・ヨク・ホク	04597
ブラダン, ジャヤ・ラム	03405		(以上敬称略)

合計243名(もしもお名前が漏れていましたら、ご一報下さい)

会員とは米山奨学生であったことと現在関西地区に住んでいる方に限ります。

会員のパーソナルレコードについて、『米山奨学生学友会名簿』(㈱)ロータリー米山記念奨学会出版で調べて下さい。

編集後記

ただ今育児中で、多少社会離れしているところがあり、だんだん“オバサン”に近づいているのではないかと思います。しかし、毎日子供を相手にし、結構楽しくのんびりと過ごしています。

そんな最中に、会報の編集を依頼され、しかも今まで全く接触したことのない仕事で、さすがに要領が悪く、戸惑いの連続でした。幸い、ロータリアンの皆様のご期待、及び会長、編集委員代表皆様のご指導があって、この11号の会報が無事に発行できました。原稿の数はけっして多くはありませんが、私なりにワンパターンに流されないように、注意をはらっています。

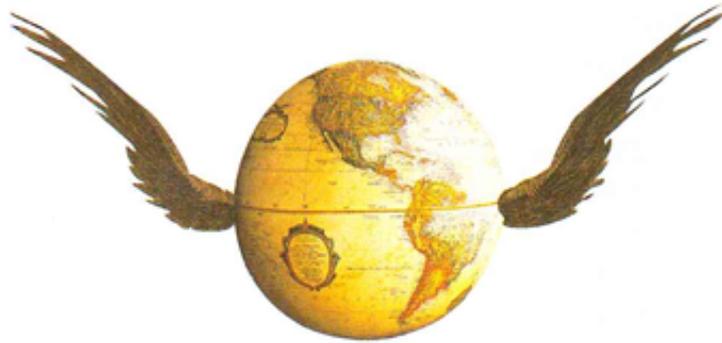
当然、力不足のところはあるかと思いますが、編集に参加させていただくことは自分のスキルアップのチャンスだと考えます。今年度は学友会(関西)の設立10周年に当たります。どんなイベントがあるか、そして、どんな新しい会報作りが出来るのか、たのしみに心待ちしています。

最後に、ロータリークラブからの資金援助と多方面のご支援、及び昭文堂の印刷出版に感謝の意を表します。

会報編集 陳麗華

編集委員

許 紫芬
吳 賢龍
王 充志
桂 小蘭
陳 麗華



ROTARY
YONEYAMA
SCHOLARSHIP
ALUMNI
ASSOCIATION